

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2014年03月04日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2008JP0100"/> 整理番号 <input type="text" value="11337"/> 担当者 <input type="text" value="渡辺 麻裕"/>
表 題	<input type="text" value="眼組織の線維化抑制・抗炎症剤の開発"/>
技術分野	<input type="text" value="化学・薬品"/> <input type="text" value="食品・バイオ"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value="ライフサイエンス"/>
適用製品	<input type="text" value="TGFbもしくはMMP9遺伝子の発現を抑制する点眼剤"/>
目 的	<input type="text" value="眼周囲組織の炎症および線維化は様々な眼科疾患の原因および憎悪因子となる、本特許は視覚障害や疾患由来の症状の進行を抑制する局所投与薬剤を提供する。本化合物は、少なくとも実験動物で角膜外傷後の炎症細胞の浸潤や線維化を抑制し、角膜混濁が起きないこと、TGFbやMMP9の発現が抑制されること、実験動物に副作用を示さないことが確認されている。角膜障害、緑内障、網膜症など多数の眼科疾患への適応が期待される。"/>
技術概要	<input type="text" value="DNAの配列を認識し、DNAの副溝に結合するポリアミド化合物が、眼科疾患に適応可能であることを確認し、眼科疾患で最も問題となる炎症性疾患に対するステロイドに代わる新たな治療薬を提供する目的で開発された。"/> <input type="text" value="TGFbおよびMMP9のプロモータ領域の転写因子結合領域に転写因子より10倍程度高い結合能で競争阻害を行うことで遺伝子の発現を抑制する薬剤である。投与にあたって薬剤の送達技術を必要とせず、細胞核内に到達し、標的DNA配列を認識し結合することで炎症時に特異的に利用される転写因子の結合を抑制、発現抑制を導く。眼球内では96時間程度薬剤が滞在するため、一日一回の点眼投与でも十分に効果が期待される。実験動物への局所投与、全身投与実験では副作用は認められず、薬剤は血中に投与後速やかに尿中および胆汁中より代謝を受けない状態で排泄されることが質量解析で確認されている。"/>

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>		
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>		
会社名	<input type="text"/>		
所 属	役職 <input type="text"/>		
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>		
連絡事項	<input type="text"/>		



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp